

## MV-22 オスプレイの大分空港などへのたび重なる緊急着陸に対する抗議決議

去る 8 月 29 日午後 6 時 45 分ごろ、米軍普天間基地所属の MV-22 オスプレイ 1 機が大分空港に緊急着陸した。機体からは白煙が出た後、胴体付近から炎が上がるのが確認されているが、火災には至ってない。幸いにも乗員 6 人を含め、けが人などが出たとの情報はない。

同機は岩国基地から普天間基地に向かう途中で、飛行中に右エンジンから煙が上がっていたとの情報もある。さらに、同機は前日にも岩国基地で白煙を上げるトラブルを起こしていたという。機体に不安を抱えたまま飛行を強行したことになるが、断じて容認できるものではない。

普天間飛行場所属のオスプレイの緊急着陸は今年に入り 3 度となり、また先日はオーストラリア沖で墜落し、隊員 3 人が犠牲となる重大事故が起きたばかりである。昨年 12 月の名護市安部沖での墜落大破事故も、まだ記憶に新しい。日常的にオスプレイが飛行する沖縄にとって、米軍の安全管理体制に不信を抱かざるを得ず、怒り心頭である。

よって、沖縄市議会は市民の生命・財産・安全を守る立場から、今回のオスプレイの大分空港などへの緊急着陸に対して厳重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実現を要求する。

### 記

1. 事故原因の究明と対応策の確立を行い、その内容を公表すること。
2. 実効性のある安全管理体制が確認されるまで、飛行を中止すること。
3. 日米地位協定を抜本的に改定すること。

以上、決議する。

平成 29 年 10 月 2 日  
沖 縄 市 議 会

宛 先

駐日米国大使            在日米軍司令官            第三海兵遠征軍司令官  
在日米軍沖縄地域調整官    在沖米国総領事